人材

農作業で知的障がい者の雇用を創出
仕事のやりがいと雇用率達成をバックアップ

エスプール　浦上壮平社長

全国の障がい者（身体・知的・精神含む）数は、現在約740万人。その半数以上が18歳～64歳の雇用対象者だ。この数値を実証すべく、民間企業の障がい者雇用率は年々上昇しており、現在は過去最高を記録している。そしてこの流れに輪をかけるかのように、今年4月から企業の障がい者雇用率が改正され、これまで56名以上の従業員を抱える事業主に対して1・8%の比率であった雇用率が、50名に対して2・0%に引き上げられるなど、ますます障がい者雇用に注目が集まっている。

作業スピードがアップしたと褒められ、さらに農作業に精を出す、山の上ホテル社員の田丸雄登氏

そうした中、人材派遣業を手がけるエスプール（東京都中央区）は、障がい者雇用促進事業として外部企業の知的障がい者社員の働き口を提供している。彼らの勤務先となるのは、わーくはぴねす農園（千葉県市原市）という植物栽培施設だ。

同社へ依頼する企業の多くは、法定雇用率達成のほかにもやりがいの感じられる仕事を提供しようと考えた時に、その業務が自社内にないというケースがほとんどである。そのため同社では、やりがいや達成感を覚えながらできる仕事として、農作物を育てる農園での勤務先を提供した。

また同時に障がい者雇用を通じて実利の獲得に成功している企業もあり、クライアントである山の上ホテル（東京都千代田区）では実際に農園で収穫した農作物を安心・安全な食材として料亭で天ぷらとしてお客へ提供することもあるという。

「知的障がい者と触れ合ったことがない人たちは、『話が通じない』や『教えられない』など、誤ったイメージを持ちがちです。しかし、彼らはとても真面目に教わったことを覚え、しっかりと仕事もします。好きなアイドルのことで当社のスタッフと盛り上がることもよくあり、私たちとの違いはほとんどありません」（同社　浦上壮平社長）

浦上社長がこの事業を立ち上げるきっかけとなったのは、2008年に観賞したある舞台がもととなっている。この舞台は、障がい者のグループホームを題材にしたものであり、行政に障がい者認定されていない人の冤罪事件や、低賃金などについても触れていたという。

「最初は大げさな設定だと思ったのですが、調べてみると本当にそのような事例があり、行政も彼らの雇用に追いついていないことを知りました。その時、自分でも何かできることはないだろうかと考え、事業部を立ち上げたのです」（浦上社長）

その後浦上社長は、雇用促進のための具体案を模索するなかで農作物の栽培へ辿りつく。知的障がい者と農作業の相性が心身ともに良いという話を専門家から聞いたからだ。さらに同社が障がいのなかでも知的障がい者の雇用促進を行うことにしたのは、知的障がい者の雇用率が身体障がい者よりも低かったからだ。

身体障がい者は、車椅子などの機器や環境面での補助をすればデスクワークなど通常の仕事が行えるのに対して、知的障がい者はまだそのような環境が整備されていなかったからである。

同社では開始3年弱となる来年3月末の時点で、10社目の契約を結ぶ予定であり、契約企業はアパレルから飲食までと幅広い。これまでに退職した人間もなく、事業の需要は日々高まるばかりだという。

「もともと当社を設立したのは、就職したくともできない就労弱者たちの〝困った〟を解決したいと思ったことでした。ですからこの障がい者雇用事業も、ただ法律を守るためでなく、誇りを持って誰かの役に立つ仕事をしてほしいという意味が込められています」（浦上社長）

プロフィール
1969年兵庫県生まれ、1989年芝浦工業大学卒業。1999年に同社を設立し、2004年から代表取締役会長兼社長に就任。2006年大阪証券取引所ヘラクレス市場（現：新ジャスダック）へ上場。